科目名	単位数	教科書名	副教材名
日本史Ｂ	４	詳説日本史Ｂ（山川出版社）	詳説　日本史図録（山川出版社）

授業の目標

１　我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し，我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって，歴史的思考力を培い，国際社会を主体的に生きる国際人としての資質を養う。

２　歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに，歴史への関心を高め，歴史的な見方や考え方を身に付ける。

３　史料・資料の読解力を養う。

４　大学入試問題に対応できる基礎力を身に付ける。

授業のすすめ方

１　主として講義形式で行います。重要事項を板書します。日本史専用ノートを用意し，授業中の重要事項は必ず書き留めるようにしてください。書くことによって知識が定着します。頑張ってノートをとるようにしてください。書くことで記憶が定着します。

２　歴史理解，歴史的思考力を高めるため，電子黒板に写真・動画などの史料・資料を投映し，活用します。

学習上の留意点

１　歴史は科学です。原因・過程・結果の積み重ねが，教科書にまとめられています。人物名・事件名・年号などを暗記することも大切ですが，歴史事象の背景を理解することによって，歴史的思考力を養うことができます。授業ではそのことを意識して臨んでください。

２　教科書をよく読んで，歴史の流れをつかむようにこころがけてください。

３　歴史は人類の歩みを知る学問です。「なぜ」戦争がおきるのか。戦争をふせぐにはどうすればよいのか。過去から学び，未来に活かす，答えが歴史のなかにあります。「なぜ」の問いかけを常に持ち，主体的・能動的に日本史を学んでください。

４　歴史書（教科書）は様々な資料・史料をもとにして，書き上げられています。歴史を理解するためには史料の読解は欠くことができません。授業中には適宜，史料集を用いて，史料の読解力を身に付けることをめざします。

５　山川出版社の『詳説日本史Ｂ』は多くの高校で使用され，大学入試問題作成者も参考にしています。大学入試問題はこの教科書から出題されるといっても過言ではありません。
教科書の本文だけでなく，脚注・地図・図版・史料・写真などにも目を通しておくことが大切です。

副教材

１　『詳説　日本史図説』（山川出版社）は，授業には必ず用意しておいてください。

評価

１　定期考査５回（１００点×５）・平常点（1 学期２０点＋2 学期２０点＋3 学期１０点）

２　平常点は授業中の態度を中心につけます。ノート検査，発問に対する解答状況等を評価します。

３　定期考査は授業内容から主に出題します。毎回の授業に集中し，教科書をしっかり読んでください。

授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一学期		第Ⅰ部　原始・古代 第１章　日本文化のあけぼの １　文化の始まり ２　農耕社会の成立 ３　古墳とヤマト政権 第２章　律令国家の形成 １　飛鳥の朝廷 ２　律令国家への道 ３　平城京の時代 ４　天平文化 ５　平安王朝の形成 第３章　貴族政治と国風文化 １　摂関政治 ２　国風文化 ３　地方政治の展開と武士	定期考査 授業姿勢 ノートの状況	１旧石器文化・縄文文化・弥生文化を経て国家が形成され，律令体制が確立する過程を理解する。 ２東アジア世界との関係，古墳文化，天平文化に着目して，古代国家の形成，文化の特色を理解する。 ３東アジア世界との関係の変化，荘園・公領の動き武士の台頭などに着目して古代国家の推移，文化の特色と中世社会の萌芽を理解する。
二学期		第Ⅱ部　中世 第４章　中世社会の成立 １　院政と平氏の台頭 ２　鎌倉幕府の成立 ３　武士の社会 ４　蒙古襲来と幕府の衰退 ５　鎌倉文化 第５章　武家社会の成長 １　室町幕府の成立 ２　幕府の衰退と庶民の台頭	定期考査 授業姿勢 ノートの状況	４武士の土地支配と公武関係，宋，元などとの関係，仏教の動向に着目して，中世国家の形成過程と特色を理解する。 ５日明貿易など東アジア世界との関係，産業の発展，庶民の台頭に着目して，中世社会の多様性を理解する。
三学期		３　室町文化 ４　戦国大名の登場 第Ⅲ部　近世 第６章　幕藩体制の確立 １　織豊政権 ２　桃山文化 ３　幕藩体制の成立	定期考査 授業姿勢 ノートの状況	６ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係，織豊政権，幕藩体制の特色，近世国家の形成過程を理解する。